



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/17 (月)	+ 400	▲ 26,700	▲ 26,300	国庫短期証券発行償還 (3M) 国債発行 (5年・個人) 国債償還 (個人)	被災地支援 ▲ 300 国債補完供給 + 7,700		日：GDP (10-12月期速報) 米：ポウマンFRB理事の講演
2/18 (火)	+ 1,000	+ 5,000	+ 6,000				
2/19 (水)	トン	▲ 9,000	▲ 9,000	国債発行 (20年)	共通担保 ▲ 8,000		日：貿易収支 (1月) 日：高田日銀審議委員の講演 米：FOMC議事要旨 (1月28日、29日開催分)
2/20 (木)	▲ 1,000	+ 20,000	+ 19,000	国庫短期証券発行償還 (1Y) 各種財政資金の支払い			欧：ユーロ圏消費者信頼感指数 (2月)
2/21 (金)	トン	▲ 13,000	▲ 13,000	流動性供給 各種財政資金の貸し付け回収			日：全国CPI (1月) 欧：ユーロ圏製造業・サービス業総合PMI (2月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆7,900億円増加の519兆4,600億円から始まった。その後、源泉税揚げや年金定時払い、国債発行等の要因により増減し、14日は529兆9,300億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初0.477%から始まり、週半ばには一部金融機関で試し取りが行われたことから0.485%まで上昇し、週末14日は0.477% (速報) で越週した。

ターム物は1W~3W物0.478%~0.66%のレンジ、1M~3M物0.54%~0.70%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、17日に10-12月期のGDP速報値の公表、21日に1月の全国CPIの公表。海外では19日にFOMC議事要旨 (1月28日、29日開催分) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.47 ~ 0.478
1M	0.55 ~ 0.70
2M	0.55 ~ 0.75
3M	0.55 ~ 0.80
6M	0.60 ~ 0.90

<レボ>

足許GC取引は週初+0.45%近辺から出合い始め、後場に+0.48%まで上昇した。12日は後場引けに+0.35%近辺まで低下、翌13日は一時+0.30%を下回る水準での出合いも見られた。14日は、+0.43%~+0.46%のレンジで終日取引された。

SC取引は2年460~468回債、5年155~174回債、10年355~370回債、20年110~130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40近辺
CP 3M	0.55 ~ 0.65

<CP>

今週の入札発行総額は約9,500億円で、週間償還額の9,000億円と同程度の発行となった。発行残高は先週末時点の26兆785億円から、2月13日時点で25兆3,547億円に減少した。発行市場は、卸売業、建設業、などで大型の発行案件が見られた。先週、田村審議委員のタカ派的な発言があったが、入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.50%台前半、3か月物は0.50%台後半から0.60%台前半と横ばい水準での出合いとなった。

来週の償還額は、1兆5,000億円となっている。発行市場は、今週同様落ち着いたマーケットが見込まれる。2/9に予定されている高田審議委員の発言内容によっては目線が変わる可能性がある。発行レートは、1か月物で0.50%台前半、3か月物で0.5%台半ばから0.6%半ばでの出合いを予想する。

<TDB>

14日の3M (1287回債) の入札は、最高落札利回り0.3211% (前回債0.3291%)、平均落札利回り0.3098% (前回債0.3110%) となった。来週の入札は19日に1Y、21日に3Mが予定されている。